

別紙様式1

## 令和元年 総務委員会 第1回議会報告会

令和1年9月30日

委員長

【 高橋 利典 】

議会報告会実施計画	委員会テーマ	人口の増える街づくり		
	テーマ設定目的	人口減少社会の中で、地方都市の人口維持、人口増加に向けての施策や取り組みを調査する。また定住人口だけでなく都市部からの交流人口を増やすまちづくりの知見について調査する。		
	対象団体	御殿場市区長会		
	調整事項	実施日	令和元年 12月 6日 (金)	
		時間	午前 <input checked="" type="button"/> 午後 3時00分	～ 午前 <input checked="" type="button"/> 午後 3時50分
		会場	市役所東館 201～203会議室・3階会議室	
		出席予定者	御殿場市全区長・総務委員会委員	
	事前準備	役割分担	受付 高橋靖銘・勝間田博文 進行・P C操作 勝間田幹也 発表 高橋利典 書記 大窪民主・高木理文 記録 杉山章夫	
		資料	勝間田幹也	
		その他		
備考				

議会報告会実施報告	実施日時出席者	実施日	令和元年 12月 6日 (金)	
		時間	午後3時00分 ～ 午後3時50分	
		会場	市役所東館 201～203会議室・3階会議室	
		当日出席者	御殿場市内区長(59人)・総務委員会委員(6人) 議会事務局(2名)	
	実施内容概要	御殿場市区長会に参加を頂けた。 前段15分で、スライドを用い、総務委員会委員の紹介、北海道東神楽町の視察報告を行った。 終了後、会場を移動し各地区ごとにテーマに沿った意見交換を行った。 限られた時間であったが、参加者とは活発に意見交換が行われた。		
	報告書	報告書作成	委員長	詳細は別紙
		議会だより	委員長	原稿は別紙
備考				

## 別紙様式2

## 議会報告会実施報告書

開催日時	令和元年12月 6日（金） 午後3時00分～	
開催場所	市役所東館 201～203会議室・3階会議室	
テーマ	人口の増える街づくり	
出席議員	司会者	勝間田 幹也
	記録者	書記：大窪 民主、高木 理文 記録：杉山 章夫
	報告者	高橋 利典
	その他	勝間田 博文
参加人数	52人	
実施内容	<p>総務委員会について説明</p> <p>前段15分を使い、総務委員会委員の紹介および北海道東神楽町の委員会行政視察について報告を行う。（別添 スライドを参照）</p> <p>各地区ごとに会場を移動し、報告会のテーマ『未来につなげる「住まいの輪』促進事業』～北海道東神楽町の取り組み～を参考にして居住する地域の現状と人口増の取り組みについて討議を行った。</p> <p>限られた時間であったが、参加者とは活発に意見交換を行うことができた。</p>	
主な意見 ・提言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バブル期に比べ、大きく地価が下がっているが宅地供給量が少なく人口増加に寄与していない。農業の担い手が減る中で、市街化調整区域の見直しが課題と考える</li> <li>・宅地造成が進む地域では若い世代が増えるが、農村地域では高齢者が増えており、今後空き家対策が必要になる</li> <li>・雇用の創出のため働く場所、工業用地の造成、企業誘致が必要である</li> <li>・宅地創出に関しては、幅広い年齢層の居住を目指したい。同年代の一斉入居は将来、高齢コミュニティになってしまう</li> </ul>	

以上のとおり、報告します。

令和2年 1月17日

御殿場市議会議長 様

委員会 委員長 高橋 利典



## 各地区意見交換会の様子

御殿場地区



富士岡地区



原里地区



玉穂・印野地区



高根地区



## まとめ

人口の減少と高齢化は、当市でも徐々に進んでおり、若い世代からは、子育て環境の充実を求める声が強まっている。また、高齢化率が高くなっている地区もあり、医療・福祉環境の充実も課題となっている。

将来の人口増加を掲げられる自治体は少ないが、活力あるまちづくりの姿を示していくことが大切である。

今回、行政視察を行った東神楽町の『未来につなげる「住まいの輪」促進事業』などを参考事例として、若者や子育て世代が住みやすくなる、人が移り住んでくる、そして、まちで育った第2世代が、都市部から帰ってくる！ 帰りたくなる！ ような、「活気あるまちづくり施策」が益々必要になると想える。



# ●御殿場市議会総務委員会 議会報告会次第

## 1 開 会

## 2 委員会の活動状況報告

テーマ…『未来につなげる「住まいの輪」促進事業』

## 3 意見交換会（各地区毎）

御殿場地区：第1委員会室、富士岡地区：第2委員会室

原里地区：302・303会議室、高根地区：301会議室

玉穂地区・印野地区：304・305会議室

## 4 閉 会



御殿場市議会 総務委員会

# 御殿場市議会総務委員会



委員長 高橋 利典



副委員長 高橋 靖銘



委員 大窪 民主



委員 杉山 章夫



委員 高木 理文



委員 勝間田 博文



委員 勝間田 幹也



御殿場市議会 総務委員会

# 御殿場市議会 総務委員会 議会報告会



御殿場市議会 総務委員会

令和元年12月6日（金）  
於：御殿場市役所 東館2階

# 東神楽町の特長と現況



御殿場市議会 総務委員会

# 北海道東神楽町の概要

人口 **10,257人** (H31.3月末現在)

※ これまで人口が40年間増えてきました！

総面積：68.5km<sup>2</sup> (北海道で5番目に小さい町)

年平均気温：7.9°C前後

(8月平均最高26.5°C、2月平均最低-9.1°C)

年間最深積雪：148cm

北海道の真ん中にある**大雪山のふもと**に位置し、真冬は-20度を下回る豪雪地域です。冬には雪が結晶のまま落ちてきます。

しかしながら、北海道の中では積雪は少ない上、自然災害もあまりありません。北海道第二の都市・旭川や観光地で有名な富良野・美瑛にも近く、「自然と都市が調和した町」と言われています。



東神楽町は、明治初期には**上川離宮予定地**のため御料地となっていましたが、明治27年（1894年）に貸し下げられ、開拓が進められました。当時は神楽村（現旭川市）の一部で、神楽の地名はもともとアイヌ語で「神々の遊ぶところ」の意訳です。昭和18年（1943年）に分村し、母村の東側にあったことから**東神楽村**となりました。昭和41年（1966年）に東神楽町になりました。



御殿場市議会 総務委員会

# 40年間人口が増え続ける町！

東神楽町の人口 (H31.3月末現在)

1万0,257人 (H22⇒H27人口増加率10.1%)

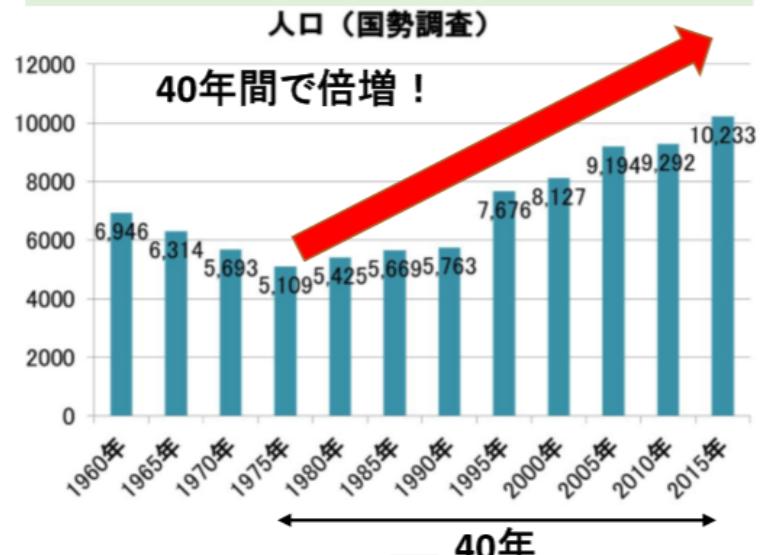
東神楽町は、「**北海道で一番の住みやすい町**」として有名であり、H27国勢調査において人口増加率は10.1%

【**北海道 1位**、全国**10位**、北海道・東北では**2位**、町の中では全国**6位**】。

全国順位	都道府県	市町村	人口増加率 (H22⇒H27)
1位	福岡県	新宮町	23.0%
2位	鹿児島県	十島村	15.1%
3位	宮城県	大和町	13.5%
4位	沖縄県	与那原町	12.8%
5位	沖縄県	与那国町	11.2%
6位	愛知県	長久手市	10.7%
7位	埼玉県	戸田市	10.6%
8位	茨城県	つくばみらい市	10.5%
9位	山梨県	昭和町	10.5%
<b>10位</b>	<b>北海道</b>	<b>東神楽町！</b>	<b>10.1%</b>

とことん、住みやすい町を追求します！

単に人口増加率が大きいだけではなく、**40年間継続して人口が増え続けている**ことが自慢。



長年にわたる「住みやすいまちづくり」の取組がやっと花開き、ついにベストテン入り

過疎化の進む北海道にあって、人口増を実現した**数少ない町**！



御殿場市議会 総務委員会

# 子供の割合は15年連続「北海道内No1」

北海道で最も子供の多い「北の子ども王国・東神楽」

国勢調査	人口	年少人口	年少人口率	ランキング	全国平均
平成12年	8,127人	1,535人	18.9%	道内2位 (1位は南幌町20.7%)	14.6%
平成17年	9,194人	1,717人	18.7%	道内ダントツ1位! (2位は更別村、芽室町16.5%)	13.8%
平成22年	9,292人	1,583人	17.0%	道内ダントツ1位! (2位は別海町15.8%)	13.2%
平成27年	10,233人	1609人	15.7%	道内ギリギリ1位! (2位は猿払村15.5%)	12.6%



子育て支援と教育の充実に力を入れ、  
入れ替わりの激しい北海道の年少人口率ランキングにあって、継続的安定的にトップを維持



御殿場市議会 総務委員会

# 地方創生に対するそもそもの考え方



御殿場市議会 総務委員会

## 地方創生仮説①

ソフトパワーの充実

「●●の町」で売り出して、注目を浴びて、

経済の活性化

観光が盛んになれば、経済が盛り上がり、働く場所が増えて、

人口の安定化

人口も増加する

→「人口政策（ヒト）」と「経済政策（カネ）」と「ソフトパワーの充実（ブランド）」は政策上、別物だと認識すべき。自治体の課題に合わせて政策立案をしないと効果が出ない！！

もちろん、ソフトパワーの充実が人々を町に引き寄せる場合もあるので、ソフトパワーの充実から経済活性化、人口安定化につなげようというストーリーは必ずしも無意味ではないが、このストーリーに心中しては、効果的、効率的な政策運営ができるとはいえない。

ソフトパワーの充実は、住民の誇りや連帯感の醸成、知名度向上、観光振興という意味では効果を発揮すると思われるが、人口増加に寄与するわけではない。

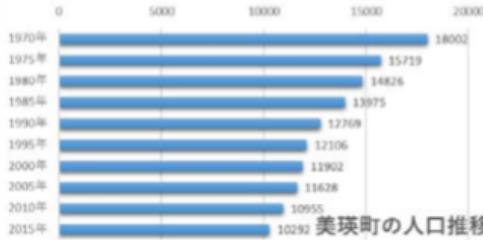
「地域ブランド調査2016」（株式会社ブランド総合研究所）によると、地域ブランド上位町村だけ抽出しても、「屋久島町」「軽井沢町」「箱根町」「美瑛町」「白浜町」「与那国町」「白馬村」「平泉町」「高千穂町」と観光地が並ぶ。しかし、人口が増えているのは軽井沢町と与那国町のみ。有名になっても人口は増えていない証拠と言える。

実際に、観光で経済が活性化している町でも、必ずしも人口が増えているわけではない。

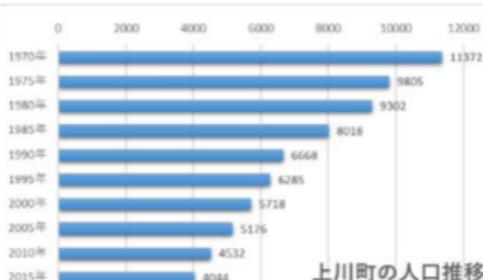
東神楽町近郊で特に観光に力を入れているのは、美瑛町と上川町。共に2010年から2013年にかけて経済規模は増加しているが、人口は減少（左図）。

（出典）総務省統計局「国勢調査」

（出典）RESAS>地域経済循環マップ>地域経済循環図



経済規模：300億⇒329億



経済規模：130億⇒147億

人口が増えている都市でも、必ずしも知名度が高くはないし、観光が盛んとは限らない。

人口増加率が東神楽町より高い町（福岡県新宮町、宮城県大和町、沖縄県与那原町、山梨県昭和町）を知る人は、会場にどれだけいますか！？東神楽だって知名度や経済で人口が増えてきたわけないでしょ？



御殿場市議会 総務委員会

## 地方創生仮説②

### (地方創生の誤解①)

- 「働き場所がないから人口が増えない」というのは誤り。地方の大半は失業率が低い。事実、多くの中小企業や農家は人手不足に悩まされている。

→地方には結構働く場所がある！「地方」を一括りにしてはいけない

自治体名	完全失業率	完全失業者数	労働力人口
上砂川町	22.72%	351人	1,545人
旭川市	8.08%	13,556人	167,809人
札幌市	7.70%	71,834人	932,871人
上川町	6.18%	144人	2,331人
鷹栖町	5.65%	208人	3,679人
当麻町	5.57%	202人	3,626人
美瑛町	5.09%	279人	5,481人
名寄市	4.86%	752人	15,468人
東川町	4.79%	190人	3,965人
士別市	4.63%	502人	10,853人
比布町	4.50%	97人	2,155人
美深町	4.46%	111人	2,490人
富良野市	4.43%	569人	12,852人
上富良野町	4.39%	272人	6,201人
愛別町	4.11%	68人	1,653人
占冠村	4.06%	36人	887人
東神楽町	3.91%	182人	4,653人
下川町	3.88%	73人	1,880人
和寒町	3.85%	77人	2,001人
中川町	3.69%	38人	1,030人
南富良野町	2.51%	36人	1,436人
中富良野町	2.47%	71人	2,872人
音威子府村	2.38%	12人	504人
劍淵町	2.29%	44人	1,925人
幌加内町	1.58%	14人	889人

(出典)統計でみる市区町村のすがた2016

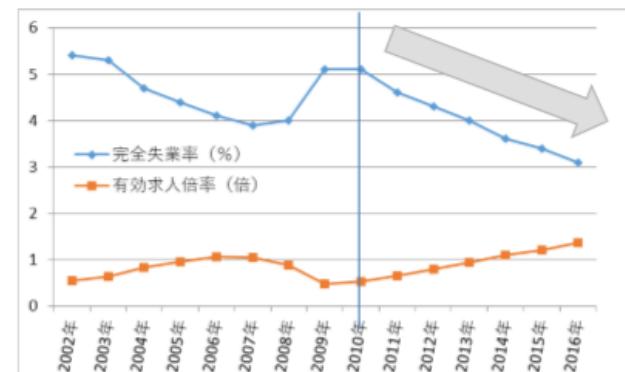
### (地方創生の誤解②)

- 「地方に住みたいけれど働く場所がないから」、「経済が盛り上がらないから」人が地方に住まないのではない。人は、いかに「生活しやすいか」で住む場所を決める！

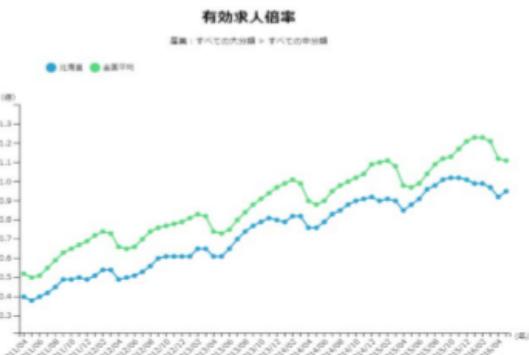
→経済は住みやすさの指標の一要素に過ぎない！

- 東神楽町の失業率は3.911%（2010年）。全国平均値は5.1%（2010年）であり、上川管内の他の地域と比べても良好で、東京（5.870%）や札幌（7.700%）、旭川（8.078%）と比べても、きわめて東神楽の雇用環境は良い（働く場所はある）。
- 一方、失業率が平均値よりも高い自治体は、働く場所がないのが課題だが、東神楽町の場合、「働きたくても働けない＝働く場所がない」のではなく、「働いてほしいのに働いてくれる人がいない＝働く人がいない」ことが問題。すなわち、働き口を増やすだけでなく、働く人材の掘り起こし（女性の社会進出、ニートの社会人教育、高齢者の再就職、障がい者雇用を促すことなど）に力を入れるべき。

全国の雇用環境の変化



(出典)完全失業率は、「労働力調査結果」（総務省統計局）、有効求人倍率は、厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出典)RESAS>雇用/医療・福祉マップ>有効求人倍率



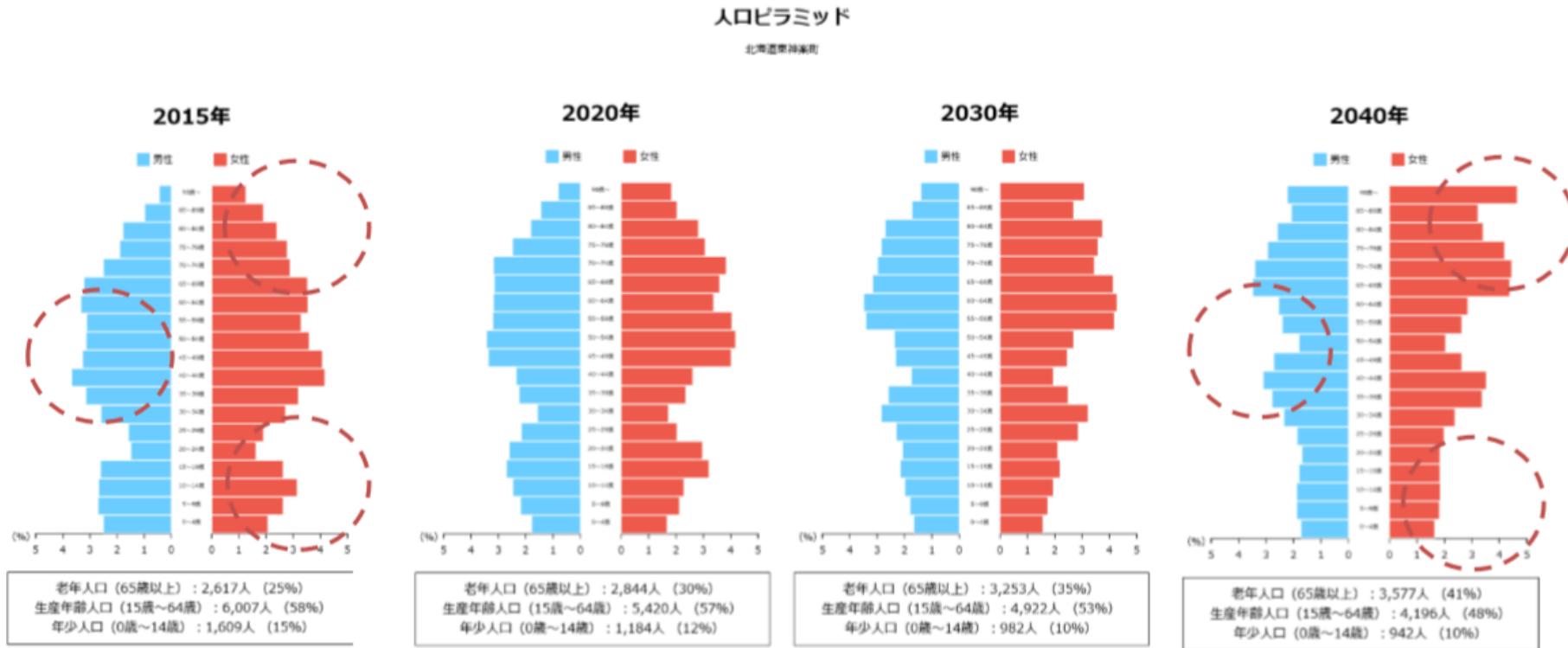
# 40年間で人口が倍増した 東神楽町の行く末



御殿場市議会 総務委員会

## 前代未聞のスピードで進む高齢化

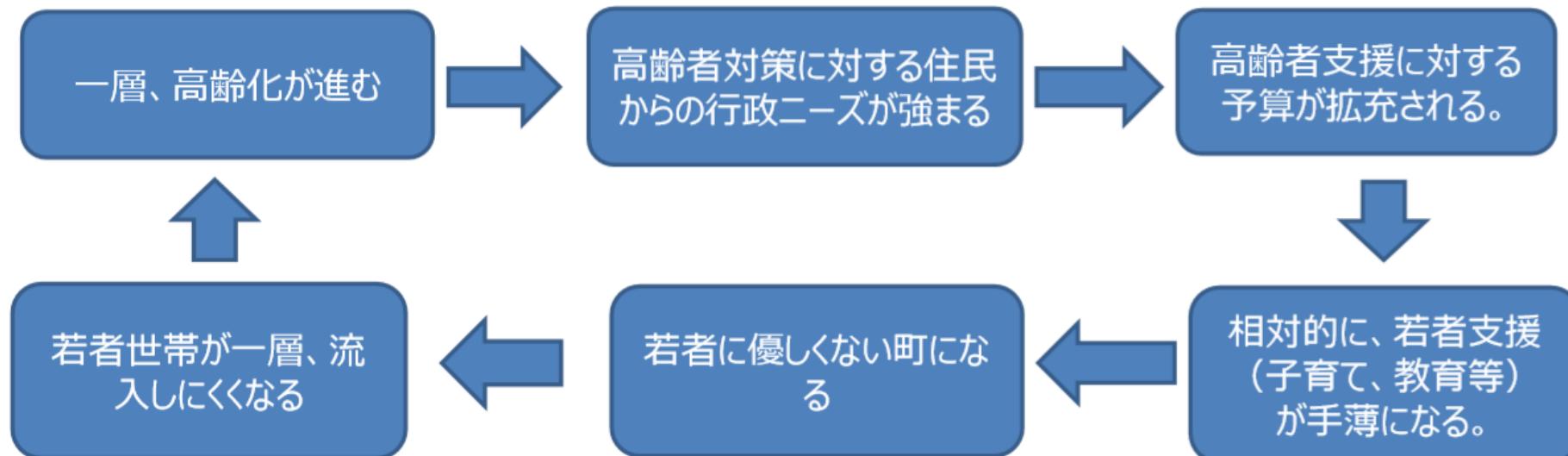
- 東神楽の良さは「人口増加率道内NO1」「子どもの割合15年連続北海道で1位」だが、両方とも当然、陥落する。
- 人口が減る**普通の自治体**、若い住民がほとんどいない**高齢者の町**になる。
- 単なる「**旭川空港がある町**」になる恐れ。



## 高齢化の何が問題なのか？

- 高齢化がより一層の高齢化を招く、**高齢化スパイラル**に陥る可能性がある。

### ＜予想される循環－止まらない高齢化－＞



高齢化の進む自治体は、支援者の高齢化から高齢者支援に対する行政ニーズが大きくなり、若い層の意見を政策に反映しにくくなる。

#### ＜想定される展開、課題＞

- 止まらない人口減少
- 減り続ける人口に対して町民から不安の声
- 生産年齢人口減少による税収減
- 高齢者支援を拡充・充実
- 子育て支援、教育予算の抑制
- 財政拡充圧力と財政難のせめぎあい
- 高齢者が住みやすく高齢者が集まる町
- ワカモノの集まらない町
- 活気のない町
- 増大する空き家
- 荒廃した住宅の増加、ゴーストタウン化
- 治安悪化
- 商工業の後継者問題
- 農業の担い手不足

スパイラルに陥る前に、今から動き出すしかない！



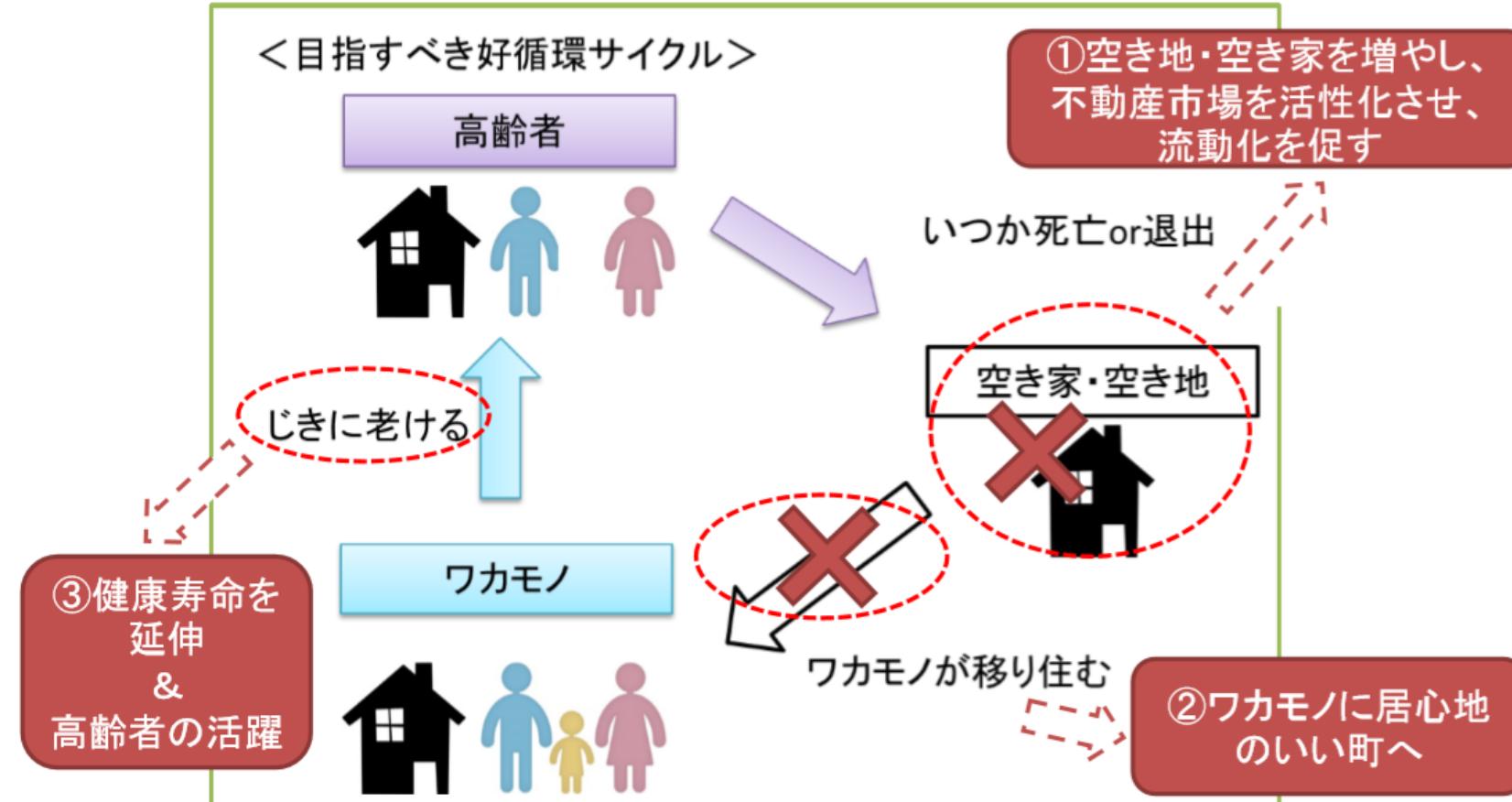
# どのように高齢化を食い止めるか？



## 高齢化に対処する基本的考え方

⇒空き地・空き家がないのであれば、住むところを増やすしかない。しかし、宅地開発による解決は最後の手段（これから日本全体、北海道全体の人口が減少するので）。退出した土地や建物に若者が入ってくる好循環サイクルを創出すべき。

➡今うちに「人口循環の促進」「若者を大切にする」「健康の増進」等を実施する必要がある。



目指すは、第二世代が帰ってくる！帰りたくなるまちづくり！



御殿場市議会 総務委員会

## 前代未聞のスピードで進む高齢化への対抗するための三本の矢 + 1

目指すは、「第二世代が帰ってくる！ 帰りたくなるまちづくり！」

①不動産市場の流通円滑化  
⇒未来につながる住まいの輪事業

②ワカモノを呼び込む文化醸成  
⇒町全体の意識改革  
&  
教育・子育てのまちの継続

③「健康の町づくり」の強力な推進  
⇒既存の取組（ひがしかぐら健康クラブ、  
(株)ミルウスとの連携事業）に加え、  
聖域なき健康の町の取組強化

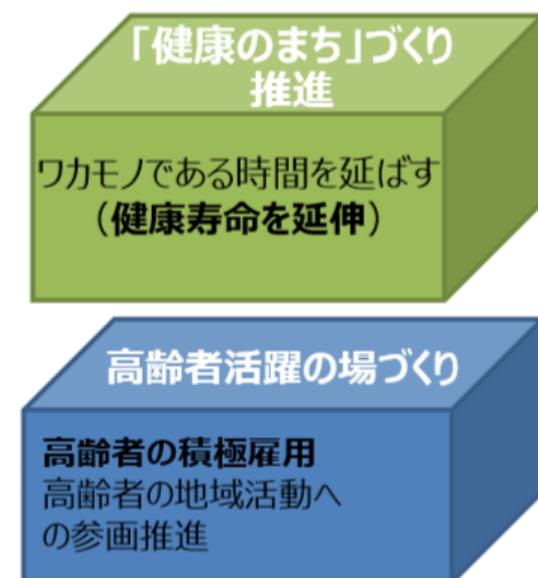
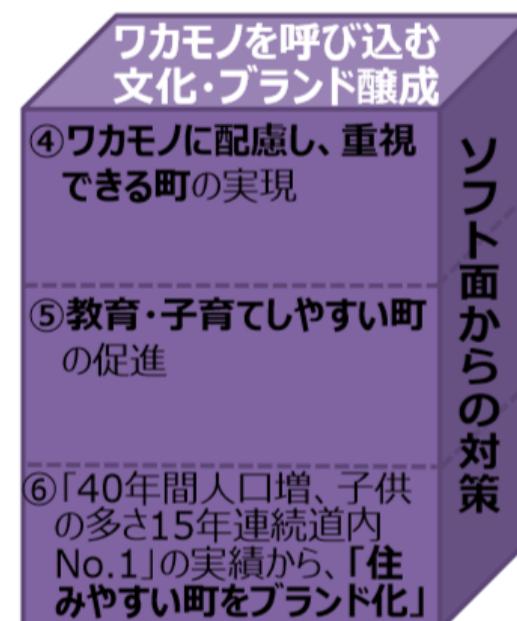
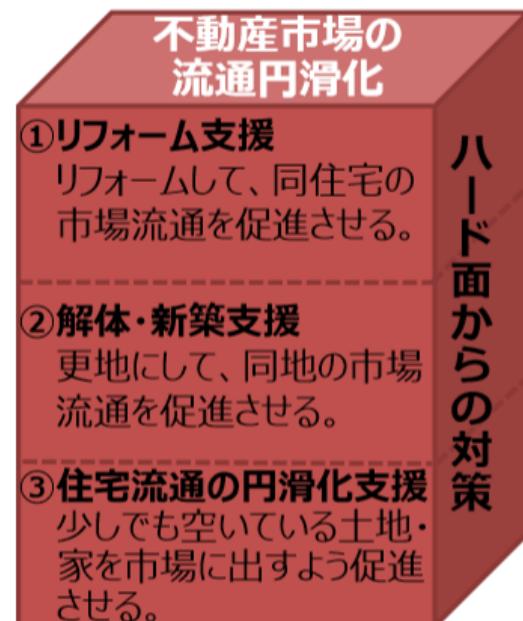
③高齢者活躍の場づくり  
⇒カムイミンタラDMO「第三の冬のアクティビティ」  
における、高齢者の積極雇用

&



## 前代未聞のスピードで進む高齢化への対抗するための三本の矢 + 1

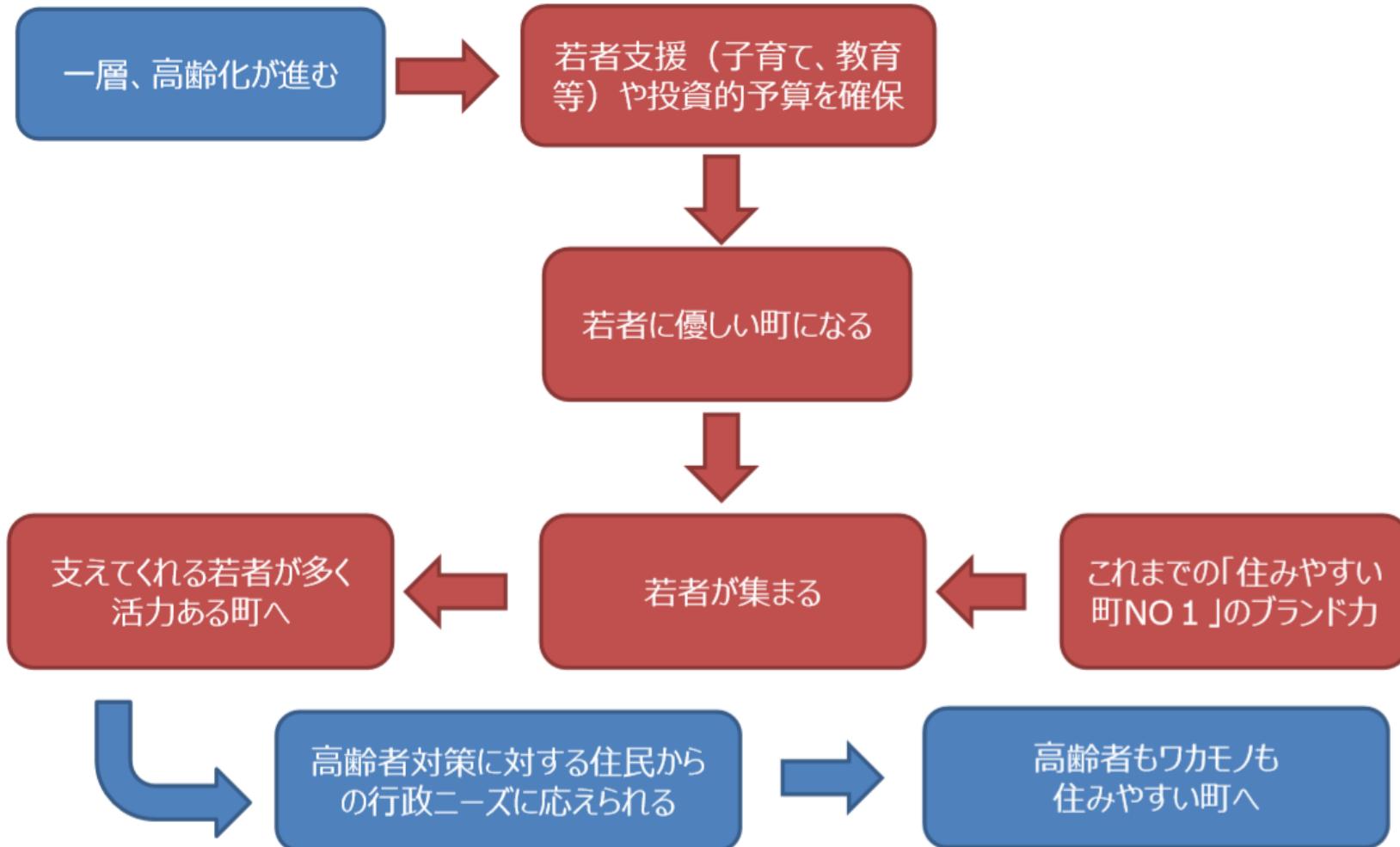
- ①空き地・空き家を増やし、不動産市場を活性化させる
- ☺ 住まないならば、土地や家を売りに出す（市場に出す）ように促す。  
➡住みたい人が買いやすくなるようインセンティブを付すことが必要。
  - ☺ ワカモノをターゲットに、オシャレで、強くて、きれいな家をそろえる。  
➡人口の好循環サイクルに耐えられる強固な住宅を供給し、かつ東神楽町のきれいな景観を維持できるとベター。
- ②ワカモノという希少な資源の奪い合いの時代が到来する中、ワカモノに居心地のいい町へ
- ☺ ワカモノにお祭りや盆踊りの準備をさせて、高齢者が真っ昼間からお酒を飲んでいるような町にワカモノは集まらない！
  - ☺ 今のワカモノはスタイルッシュに、自由に、働きたい（生活したい）という願望を満たせないといけない。  
➡今のワカモノには、知的産業で働いていて、自由でカジュアルな服装、細部に干渉・束縛されない働き方、成果・結果主義、リゾートや郊外からの仕事、喫煙しない、健康的な食事、インスタ映えする華やかで爽やかな世界がかったいいと思っている。



## 目指すべき流れ

➤ 目指すべきはまず若者が集まる町にし、その上で高齢者も住みやすい町にしないといけない。

＜理想的な流れ＞



# まとめ

住宅を建設する年代は一般的には30歳代から40歳代の方が多い。そういった世代でコミュニティを形成してる。年数が経てば、そこに居住する皆さんのが高齢化していく。

不動産市場の流通円滑化  
ワカモノを呼び込む文化醸成  
「健康の町づくり」の強力な推進  
&  
高齢者活躍の場づくり

高齢化スパイラルに陥ることのないよう、  
好循環サイクルを確立すべき。



# 御殿場市議会 総務委員会 議会報告会



御殿場市議会 総務委員会

# 意見交換会分担

地 区	担当委員	意見交換会会議室	
御殿場地区（15区）	大窪委員	高木委員	第1委員会室
富士岡地区（15区）	高橋利委員長		第2委員会室
原里地区（10区）	高橋靖副委員長	勝間田博委員	302・303号会議室
玉穂・印野地区（7+3区）	勝間田幹委員		304・305号会議室
高根地区（9区）	杉山委員		301号会議室

